

科目名・単位数	管理会計 I 2単位	科目分類	管理会計系	基本科目
配当年次	1年次・春学期・昼・夜	担当教員	やすだ まさよし	
履修形態	選択必修		保田 順慶	
授業概要	<p>本講義では、原価管理や経営計画の設定に役立ち、また制度として認められている会計技法の標準原価計算について説明する。次いで直接原価計算および利益管理に有用な会計技法である原価・営業量・利益関係の分析について解説すると共に、両技法において必要となる原価の固定分解について説明する。また、講義後半においては、管理会計の周辺領域の知識やBSC、ABC、原価企画といった新しい管理会計技法の基礎知識についても概説する。</p>			
到達目標	<p>実際原価計算と標準原価計算との相違を理解し、管理会計技法を活用しうる能力を培うこと。また、CVP分析や意思決定会計の基礎を理解すること。BSC、ABC、原価企画などの基礎知識を身につけること。</p>			
授業方法	<p>講義形式で配付資料に基づいて進める。試験による効果測定は、期末試験とする。</p>			
事前・事後学習	<p>毎回事前に配付資料を通読して、不安がある項目については参考図書等で学習しておくこと(90分)。また、期末テストに備えて、講義終了後には講義内で扱った例題を再度解き直しておくこと(90分)。</p>			
成績評価の方法	<p>講義への取り組みで20%、期末考査80%の割合で評価する。総合的に評価する。</p>			
フィードバックの方法	<p>期末試験の解説については、終了後に実施する。</p>			
履修上の注意	<p>管理会計を学ぶ強い意欲を持って授業に臨むこと。</p>			
授 業 計 画				
第1回	<p>1. 標準原価計算 標準原価計算の意義、目的(原価管理目的、財務諸表作成目的、予算管理目的、記帳の簡略化・迅速化)、標準原価カード、標準原価計算の手続きについて学習する。</p>			
第2回	<p>2. 標準原価計算 標準原価計算の原価差異の算定方法や標準原価計算の理論的な論点について説明する。</p>			
第3回	<p>3. 標準原価計算 標準原価計算における差異分析の概要、直接材料費の差異分析、直接労務費の差異分析、製造間接費差異分析について、図解して説明する。</p>			

第 4 回	4. 標準原価計算 仕掛品勘定への記帳方法（パーシャルプランとシングルプラン）、インプット法とアウトプット法の相違などについて学ぶ。
第 5 回	5. 標準原価計算 仕損が発生する場合の標準原価カードの作成方法について学習する。原価標準の設定方法と勘定記入について第 1 法と第 2 法を学習する。
第 6 回	6. 標準原価計算 標準原価計算を特定の業種で行った場合に生じる配合差異と歩留差異について学習する。また、直接労務費の詳細な差異分析についても学ぶ。
第 7 回	7. 標準原価計算 標準原価差異の会計年度末の会計処理方法について、原価計算基準四七の規定に基づいた内容を学習する。
第 8 回	8. 直接原価計算（1） 直接原価計算の意義と目的、特徴についての理論的な検討を行う。全部原価計算との違いを理解し、直接原価計算における損益計算書、固定費調整について学習する。
第 9 回	9. 直接原価計算（2） 利益計画に有用な直接原価計算と原価管理に有用な標準原価計算とが結合した直接標準原価計算について、全部標準原価計算の損益計算書や勘定連絡と比較しながら学習する。
第 10 回	10. 原価・営業量・利益関係の分析（1） 原価を変動費と固定費に分解し、企業の短期利益計画に役立つ原価・営業量・利益関係の分析
第 11 回	11. 原価・営業量・利益関係の分析（2） 原価の固定分解、損益分岐分析、安全余裕率、経営レバレッジ係数、損益分岐図表、多品種製品の C V P 分析などについて計算例を用いて学習する。
第 12 回	12. 管理会計の基礎知識（1） 管理会計の基礎知識や経営組織論、経営管理論との管理会計の関係性について基礎的な知識を講義する。
第 13 回	13. 管理会計の基礎知識（2） 重要な管理会計技法である原価企画、A B C（活動基準原価計算）、A B M（活動基準原価管理）について、その基礎知識を学習する。
第 14 回	14. 管理会計の基礎知識（3）・まとめ 新たな管理会計技法として注目を集めた B S C（バランスト・スコアカード）の基礎知識について学習する。
第 15 回	15. 授業内テスト 今までの学習内容の定着を確認する確認テストを実施する。また、試験後解説を実施する。
テキスト	講義時に資料を配付する。
参考図書	山田庫平・吉村聡編著『経営管理会計の基礎』（東京経済情報出版、2006）